

第19期通常総会議事報告

NPO給排水設備研究会

アルカディア市ヶ谷に、多くの出席者を迎え、第19期通常総会を開催した。

また、総会終了後、功労賞・業績賞・奨励賞の表彰式を執り行った。

日時：令和7年5月28日（水）17：00～17：35

場所：アルカディア市ヶ谷 7階 琴平の間

須賀総務委員長の司会により、総会の開会が告げられ、以下のとおり進行し、無事閉会となった。

1. 議長の選出

定款第27条の規定により、議長を選出するに当たって、大塚会長理事の推薦があり、大塚会長理事を議長に選出した。

2. 総会成立の宣言

総会開会時の出席正会員数は、本人出席23名、委任状による出席104名、合計127名で、正会員数217名に対し、2分の1以上の出席により、議長は本総会の成立を宣言した。

3. 議事録署名人の選出

定款第31条2項により、議事録署名人として寫田成二氏と飯塚宏氏を選任した。

4. 第1号議案及び第2号議案の審議

第1号議案（第19期事業報告承認の件）及び第2号議案（第19期収支決算承認の件）の一括審議に関し、配布資料に基づき各担当委員長、幹事からの報告がなされ、輿水監事から監査結果報告があり、議長は本件の一括承認を求め、異議なく可決承認された。

5. 第3号議案及び第4号議案の審議

第3号議案（第20期事業計画案承認の件）及び第4号

議案（第20期収支予算案承認の件）の一括審議に関して、須賀総務委員長及び加藤財務委員長から説明があり、議長は本件の一括承認を求め、異議なく可決承認された。

6. 第5号議案の審議

第5号議案（役員選任の件）の審議に関して、須賀総務委員長から説明があり、原案通り承認された。

7. 報告事項

議案の審議終了後、新名誉会員、新特別会員及び2024年度功労賞・業績賞・奨励賞、第34回みらい水回り学生論文賞の報告があった。

8. 2024年度功労賞・業績賞・奨励賞表彰式

報告事項に引き続き、須賀総務委員長より2024年度功労賞受賞者の紹介があり、大塚会長理事より表彰状、記念品が授与された。



通常総会開催状況



功労賞・業績賞・奨励賞の表彰式

(左から大塚会長理事、株式会社アカギ近藤茂氏（功労賞）、小瀬表彰推薦委員会委員長)

第1号議案 第19期事業報告

(2024年4月1日～2025年3月31日)

I. 会務報告

1. 第18期通常総会

開催月日	場所	出席者	議事
2024年5月20日(月)	アルカディア市ヶ谷 4階飛鳥の間 (東京都千代田区九段北 4-2-25)	正会員総数 250名 出席会員数(委任状含む) 169名	(1) 第18期事業報告承認の件 (承認) (2) 第18期収支決算承認の件 (承認) (3) 第19期事業計画案承認の件 (承認) (4) 第19期収支予算案承認の件 (承認) (5) 報告事項 ・第19期運営体制の紹介 (了承) ・新名誉会員・新特別会員の紹介 (了承) ・第33回みらい水回り学生論文賞受賞者の紹介 (了承)

2. 理事会

開催回	開催日	場所	議事
第1回	2024年4月25日	SK飯田橋ビル会議室+Web	(1) 審議事項 ①第18期第6回理事会議事録確認 (承認) ②新入会員の承認 (承認) ③通常総会の議事内容、開催方法の確認承認 (承認) (2) 報告事項 ①各委員会活動報告・予定報告 (了承) ②事務局報告(会員動向・行事結果・他) (了承)
第2回	2024年6月27日	SK飯田橋ビル会議室+Web	(1) 審議事項 ①第19期第1回理事会議事録確認 (承認) ②第18期通常総会議事報告(会誌用)の確認 (承認) ③新入会員の承認 (承認) (2) 報告事項 ①各委員会活動報告・予定報告 (了承) ②事務局報告(会員動向・行事結果・他) (了承)
第3回	2024年9月18日	SK飯田橋ビル会議室+Web	(1) 審議事項 ①第19期第2回理事会議事録確認 (承認) ②新入会員の承認 (承認) (2) 報告事項 ①各委員会活動報告・予定報告 (了承) ②事務局報告(会員動向・行事結果・他) (了承)
第4回	2024年12月18日	クボタ本社会議室+Web	(1) 審議事項 ①第19期第3回理事会議事録確認 (承認) ②新入会員の承認 (承認) ③次期役員候補者の推薦・承認 (承認) ④名誉会員、特別会員の推薦・承認 (承認) (2) 報告事項 ①各委員会活動報告・予定報告 (了承) ②事務局報告(会員動向・行事結果・他) (了承)
第5回	2025年3月19日	SK飯田橋ビル会議室+Web	(1) 審議事項 ①第19期第4回理事会議事録確認 (承認) ②新入会員の承認 (承認) ③第19期通常総会開催日程等の確認・承認 (承認) (2) 報告事項 ①次期役員候補者選挙の実施状況報告 (了承) ②各委員会活動報告・予定報告 (了承) ③事務局報告(会員動向・行事結果・他) (了承)

II. 活動報告

1. 委員会

委員会名 (委員長)	開催 回数	活 動 内 容
会長直轄 (大塚雅之)	—	<ol style="list-style-type: none"> 1. 通常総会を開催した。 2. 学生懸賞論文募集を支援した。 3. 国際交流の積極的推進を支援した。 4. 運営委員会を開催した。 5. シニア技術者の活用を検討した。
総務委員会 (須賀良平)	5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運営業務の改善と標準化を進めた。 2. 事務局の支援を行った。 3. 特別委員会の運営・活動を支援した。 4. 通常総会後の懇親会を開催した。 5. 第20・21期役員候補者選挙を実施した。 6. 会の対外的な広報を行った。 7. 教育人材育成委員会の運営・活動を支援した。 8. みらい市委員会の運営・活動を支援した。
財務委員会 (加藤正宜)	5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予算執行管理及び決算を行った。 2. 予算執行管理方法の検討を行った。 3. 会員の増強を推進した。 4. 第4回賛助委員会を開催した。
出版委員会 (小瀬博之)	12	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年4回会誌を発行した。 2. 会員向けサービスとして、発行後1年を経過した会誌のPDF版をオンライン配信した。 3. 広く会員各位の意見や提案を集約する手段を考え、編集に取り入れた。
事業委員会 (高田成二)	5	<ol style="list-style-type: none"> 1. セミナーを開催した。 2. 見学会を開催した。 3. 親睦ゴルフ大会を開催した。 4. 散策の会を企画した。 5. 新年会を開催した。 6. 配管技能講習会を開催した。
学術委員会 (西川豊宏)	5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 給排水設備勉強会を開催した。 2. 修士論文発表会の開催を企画した。 3. 講演・見学会を開催した。 4. 忘年会を開催した。 5. 国際交流に関する支援を行った。
特別委員会 表彰推薦 委員会 (小瀬博之)	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 顕彰制度における表彰方法などの必要事項を定め、表彰制度の適切な運営を図った。 2. 功労賞の表彰推薦者を決定した。
特別委員会 みらい市 委員会 (加藤正宜)	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. みらい市2024（10月11日、12日）に出展した。
特別委員会 アジア建築 設備推進委員会（飯塚宏）	5	<ol style="list-style-type: none"> 1. アジアの建築設備技術動向を調査し、技術交流を深めた。 2. 「アジア建築設備推進委員会シンポジウム」を開催した。（11月29日）シンポジウム終了後、参加者に報告書を送付した。
特別委員会 みらい水回り学生論文賞 審査委員会 (大塚雅之)	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 給排水衛生設備分野の人材育成を目的として、学生対象の論文を募集した。今年度応募作品12編の審査を行った。
特別委員会 情報委員会 (小瀬博之)	—	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本会ホームページとSNS（Facebook, X（旧Twitter））を管理、運用した。 2. 各委員会のオンライン運用を支援した。 3. 組織運営のさらなる情報化を検討した。
特別委員会 関西給排水設備委員会 (鍋島美奈子)	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定例会を1回開催し、セミナー等の企画について検討した。 2. 2025年3月26日に、TOTOテクニカルセンター大阪にて、オフィスタイルと下水熱利用に関するセミナーを開催し、10名の参加者があった。終了後に有志による懇親会を開催した。

2. 各種行事・勉強会等

1) 総務委員会

名称	開催日	場所	参加者
懇親会	24.5.20	アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）	参加者121名（内学生12名）

2) 財務委員会

名称	開催日	場所	参加者
賛助委員会	25.2.28	アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）	参加者86名（内招待者9名）

3) 出版委員会（会誌発行内容）

項目 号	項目		修士論文 概要	論説寄稿 講座	Reviews Viewpoint Our news	水の季 声	会告	活動 報告	ブック レビュー	その他	広告	頁 数 () 内は総頁数	
	巻頭言	特集										本文	総頁数
4月号 Vol.41-1	—	33	—	17	—	—	6	3	2	8	8	本文	69 (77)
7月号 Vol.41-2	—	26	27	13	3	—	6	19	1	6	8	本文	101 (109)
10月号 Vol.41-3	—	29	—	7	4	—	7	—	3	6	5	本文	56 (61)
1月号 Vol.41-4	1	18	—	28	—	2	3	7	2	9	10	本文	70 (80)

4) 事業委員会

名称	開催日	場所	テ ー マ 等	参加者
親睦ゴルフ会	24.5.30	源氏山ゴルフクラブ	第56回親睦ゴルフ会	参加者10名
配管技能講習会	24.9.25 9.26	橋本総業株 東雲研修センター（東京都江東区）	第20回配管技能講習会	延べ参加者35名
見学会	24.10.2	高砂熱学イノベーションセンター （茨城県つくばみらい市）	高砂熱学イノベーションセンター見学会	参加者13名
親睦ゴルフ会	24.11.7	源氏山ゴルフクラブ	第57回親睦ゴルフ会	参加者6名
新年会	25.1.31	アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）	新年会	参加者133名（内学生1名）
セミナー	25.2.26	三機工業本社会議室（東京都中央区）	セミナー「温泉宿泊施設」	参加者27名

5) 学術委員会

名称	開催日	場所	テ ー マ 等	参加者
勉強会	24.10.19	工学院大学 新宿キャンパス	第1回勉強会 発表者3名	参加者9名
勉強会	24.11.16	東洋大学 川越キャンパス	第2回勉強会 発表者4名	参加者8名
勉強会	24.12.20	明治大学 駿河台キャンパス	第3回勉強会 発表者7名	参加者13名（内オンライン1名）
忘年会	24.12.20	（千代田区神田司町）	忘年会	参加者17名

6) 特別委員会：みらい市委員会

名称	開催日	場所	テ ー マ 等
展示会	24.10.11 ～10.12	東京ビッグサイト（東京都江東区）	「みらい市2024」出展

7) 特別委員会：アジア建築設備推進委員会

名称	開催日	場所	テ ー マ 等	参加者
シンポジウム	24.11.29	日本建築衛生管理教育 センター三田分室会議室（東京都港区）	アジア建築設備推進委員会シンポジウム	参加者76名

8) 特別委員会：関西給排水設備委員会

名 称	開催日	場 所	テ ー マ 等
定例会	25.1.7	K.B.I. 会議室 (住友中之島ビル)	今後の行事計画等について
セミナー	25.3.26	TOTOテクニカルセンター大阪	オフィストイレと下水熱利用に関するセミナー 参加者10名

Ⅲ. 会員

区 分	名 誉	特 別	正会員	学 生	賛 助	計	
第18期々末 (2024.3.31)	23	8	193	13	123	360	
会員動向	入 会	1	2	8	11	1	23
	退 会	0	1	17	6	5	29
第19期々末 (2025.3.31)	24	9	184	18	119	354	

Ⅳ. 役員

第19期役員 (敬称略)

会長理事	大塚 雅之	
副会長理事	須賀 良平 (総務委員長)	加藤 正宜 (財務委員長)
	小瀬 博之 (出版委員長)	寫田 成二 (事業委員長)
理 事	西川 豊宏 (学術委員長)	飯塚 宏 (アジア建築設備推進委員長)
	光永 威彦 (総務担当)	土井 章弘 (出版担当)
	小寺 定典 (出版担当)	竹田 喜一 (事業担当)
	永島 史朗 (事業担当)	飯田 徹 (事業担当)
	青木 一義 (学術担当)	鍋島美奈子 (関西給排水設備委員長)
監 事	倉田 丈司	輿水 知

第2号議案 第19期収支決算

I. 収支報告書（第19期予算対比 2024年4月1日～ 2025年3月31日）

（単位：円）

収入の部			支出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
1. 会費・入会金収入			1. 管理費		
正会員入会金	20,000	2,000	人件費	2,688,000	2,688,000
特別・正会員会費	1,206,000	1,170,000	賃料（光熱費含む）	1,161,600	1,161,600
学生会員入会金	6,000	4,000	通信費	380,000	372,852
学生会員会費	39,000	21,000	消耗品費	100,000	94,479
賛助会員会費 1級	2,990,000	2,920,000	会議費	80,000	77,015
2級	2,460,000	2,445,000	租税公課・雑費	50,000	47,500
小計	6,721,000	6,562,000	小計	4,459,600	4,441,446
2. 事業収入			2. 事業支出		
1) 調査研究事業収入	100,000	13,000	1) 調査研究事業費	50,000	4,827
見学会等			見学会等		
(内訳)		(内訳)	(内訳)		(内訳)
高砂熟学イノベーション		13,000	高砂熟学イノベーション		4,827
センター見学			センター見学		
2) 普及啓発事業収入	2,200,000	3,254,269	2) 普及啓発事業費	1,800,000	3,007,775
行事収入			行事支出		
(内訳)		(内訳)	(内訳)		(内訳)
総会		1,070,000	総会		1,037,533
アジア建築設備		829,269	アジア建築設備シンポジウム		829,269
シンポジウム			新年会		1,097,409
新年会		1,300,000	温泉宿泊施設セミナー		43,564
温泉宿泊施設セミナー		55,000	関西給排水設備委員会費	150,000	151,800
会誌発行（広告）	1,700,000	1,259,600	会誌発行費	3,500,000	3,665,167
賛助会員会	1,000,000	770,000	賛助会員会	900,000	1,010,349
3) 技能向上事業収入			3) 技能向上事業費		
配管技能講習会	800,000	700,000	配管技能講習会	700,000	464,652
小計	5,800,000	5,996,869	小計	7,291,500	8,406,070
3. その他収入			3. 予備費	300,000	123,590
寄付金収入	0	0	(内訳)		(内訳)
受取利息雑収入	15,000	5,759	みらい市出展費用		123,590
40周年記念誌販売	0	52,510			
当期収入合計 ①	12,536,000	12,617,138	当期支出合計 ④	12,051,100	12,971,106
前期繰越金 ②	11,838,783	11,838,783	次期繰越金 ③-④	12,323,683	11,484,815
合計 ③	24,374,783	24,455,921	合計	24,374,783	24,455,921
			①-④	484,900	△353,968

II. 貸借対照表 (2025年3月31日現在)

科 目	金 額 (円)
I 資産の部	
1 流動資産	
現金預金	
現金	131,292
普通預金 みずほ銀行 駒込支店	6,185,782
普通預金 三菱東京UFJ銀行神保町支店	4,409,313
振替口座 郵便局 (飯田橋局)	2,320,970
普通預金 三菱東京UFJ銀行神保町支店 (基金口)	1,630,406
未収入金	288,000
仮払金	225,495
流動資産合計	15,191,258
2 固定資産	
固定資産合計	0
資産合計	15,191,258
II 負債の部	
1 流動負債	
未払金	151,800
預り金 顕彰制度運営基金	1,629,643
前受金 2025年度年会費	1,925,000
流動負債合計	3,706,443
2 固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	3,706,443
正味財産	11,484,815

第3号議案 2025年度（第20期）事業計画案

(2025年4月1日～2026年3月31日)

委員会名	活 動 内 容
会長直轄	<ol style="list-style-type: none"> 1. 通常総会を開催する。 2. 学生懸賞論文募集を支援する。 3. 国際交流の積極的推進を支援する。 4. 運営委員会を開催する。 5. シニア技術者の活用を検討する。
総務委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運営業務の改善と標準化を進める。 2. 事務局の支援を行う。 3. 特別委員会の運営・活動を支援する。 4. 通常総会を開催する。 5. 会の対外的な広報を行う。 6. 教育人材育成委員会の運営・活動を支援する。 7. みらい市委員会の運営・活動を支援する。
財務委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予算執行管理及び決算を行う。 2. 予算執行管理方法の検討を行う。 3. 会員の増強を推進する。
出版委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年4回会誌を発行する。 2. 会員向けサービスとして、発行後1年を経過した会誌のPDF版をオンライン配信する。 3. 広く会員各位の意見や提案を集約する手段を考え、編集に取り入れる。
事業委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術懇談会・シンポジウムを開催する。 2. 見学会を開催する。 3. 親睦ゴルフ大会を開催する。 4. 散策の会を開催する。 5. 新年会を開催する。 6. 配管技能講習会を開催する。
学術委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 給排水設備勉強会を開催する。 2. 修士論文発表会を開催する。 3. 学術講演・学術見学会を開催する。 4. シンポジウムを開催する。 5. 忘年会を開催する。 6. スチューデントシンポジウムを開催する。 7. 国際交流に関する支援を行う。
特別委員会 表彰推薦 委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 顕彰制度における表彰方法などの必要事項を定め、表彰制度の適切な運営を図る。 2. 功労賞、業績賞、奨励賞の表彰推薦者を決定する。
特別委員会 みらい市委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. みらい市2025（11月14日、15日）に出展する。
特別委員会 アジア建築設備推進委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. アジアの建築設備技術動向を調査し、技術交流を深める。
特別委員会 みらい水回り学生論文賞 審査委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 給排水衛生設備分野の人材育成を目的とし、学生を対象とした論文を募集する。
特別委員会 情報委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本会ホームページとSNS（Facebook, Twitter）を管理、運用する。 2. 各委員会のオンライン運用を支援する。 3. 組織運営のさらなる情報化を検討する。
特別委員会 関西給排水 設備委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. セミナーや見学会を開催する。 2. 給排水設計・積算・施工などに関する座談会を開催する。

第4号議案 2025年度(第20期)収支予算(案)

(2025年4月1日~2026年3月31日)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
科 目	第20期予算額	科 目	第20期予算額
1. 会費・入会金収入		1. 管理費	
正会員入会金	20,000	人件費	2,688,000
特別・正会員会費	1,128,000	賃料(光熱費含む)	1,161,600
学生会員入会金	6,000	通信費	380,000
学生会員会費	51,000	消耗品費	100,000
賛助会員会費1級	2,920,000	会議費	80,000
2級	2,250,000	雑費	50,000
小計	6,375,000	小計	4,459,600
2. 事業収入		2. 事業費	
1) 調査研究事業収入	100,000	1) 調査研究事業	50,000
(見学会等)		(見学会等)	
2) 普及啓発事業収入	2,200,000	2) 普及啓発事業	1,800,000
行事収入		行事支出	
		関西給排水設備委員会	150,000
会誌広告収入	1,700,000	会誌発行費	3,500,000
3) 技能向上事業収入	800,000	3) 技能向上事業費	700,000
(配管技能講習会)		(配管技能講習会)	
		4) 情報収集及び提供事業費	
小計	4,800,000	ホームページ維持管理	150,000
		CIB支援金	41,500
3. その他収入		小計	6,391,500
寄付金収入	0	3. 予備費	300,000
受取利息雑収入	15,000	(みらい市出展費用等)	
当期収入合計 ①	11,190,000	当期支出合計 ④	11,151,100
前期繰越金 ②	11,484,815	次期繰越金 ③-④	11,523,715
合計 ③	22,674,815	合計	22,674,815
		①-④	38,900

第5号議案 役員選任

第20・21期役員候補者(敬称略)

会長理事候補	小瀬 博之
理事候補	飯田 徹
	加藤健一郎
	小寺 定典
	嵩田 成二
	須賀 良平
	鈴木 孝彦
	高村 秀紀
	竹田 喜一
	土井 章弘
	永島 史朗
	鍋島美奈子
	西川 豊宏
	本多 真
	光永 威彦
監事候補	倉田 丈司
	輿水 知

6. 報告事項

1) 新名誉会員・新特別会員（敬称略）

(1) 新名誉会員

柳村 暁 中村 勉

(2) 新特別会員

大塚 雅之 土井 章弘

2) 2024年度功労賞受賞者

株式会社 アカギ

3) 感謝状の贈呈

編集事務所・エクリ 須山 実

4) 第34回みらい水回り学生論文賞受賞者（敬称略）

・優秀賞 水の音に対する快適性の定量的評価に関する研究

稲垣 佳紘：明治大学大学院 修士2年

森 駿太：明治大学大学院 修士1年

・優秀賞 枯葉回収ますを有するスノーダクト配管システムの提案

－枯葉回収ますが排水横管内の排水性能へ与える影響－

高山 拓徳：関東学院大学大学院 修士2年

角野 公亮：関東学院大学 学部4年

谷藤 夏菜：関東学院大学 学部4年

山田 希美：関東学院大学 学部4年

・アイデア賞 流しそうめんの可能性と発展

黒坂 大朗：明治大学 学部4年

鈴木 岳斗：明治大学 学部4年

・アイデア賞 サウナの入浴回数と心拍数の関係

白石 晃太：明治大学 学部4年

・アイデア賞 染髪の実験と髪色の変化に関する研究

田口 詩織：明治大学 学部4年

原 奏音：明治大学 学部4年

嶋 美鈴：明治大学 学部4年

・アイデア賞 配管計画とパッシブデザインを多角的に検討した室内負荷低減手法の提案

－クールルーバ配管の提案－

菊地亮太郎：関東学院大学 学部4年

・努力賞 水冷式パソコン冷却装置の実験

細井 美奈：明治大学大学院 修士2年

・努力賞 乾燥地域と多雨地域における雨水資源管理技術と適応性に関する事例調査

チョウ ケンイ：明治大学大学院 修士1年

・努力賞 洗濯機の消費電力量と節電

高吉慶一郎：明治大学 学部4年

・審査員賞 破封した場合における床排水トラップの新機能の提案

相澤 幸司：関東学院大学大学院 修士1年

・審査員賞 水のセミオフグリッド化に関する提案

小松 央空：信州大学大学院 修士1年

・審査員賞 料理の際に使用する水質に関する研究

小池 竜暉：明治大学 学部4年

所 駿人：明治大学 学部4年

吉川 凜：明治大学 学部4年

第20期運営体制のご紹介（敬称略・順不同）

令和7年5月28日（水）に開催した通常総会終了後の理事会にて、副会長理事及び理事の担当が決まりました。各委員会委員も含め、第20期運営体制をご紹介します。

（1）役員（アンダーラインは新役員を示します。）

会長理事	小瀬 博之	
副会長理事	須賀 良平（総務委員長）	光永 威彦（財務委員長）
	土井 章弘（出版委員長）	鳶田 成二（事業委員長）
	西川 豊宏（学術委員長）	
理事	鈴木 孝彦（総務担当）	加藤健一郎（財務担当）
	小寺 定典（出版担当）	永島 史朗（出版担当）
	竹田 喜一（事業担当）	飯田 徹（事業担当）
	本多 真（事業担当）	高村 秀紀（学術担当）
	鍋島美奈子（関西給排水設備委員会担当）	
監事	倉田 丈司	輿水 知

（2）各委員会委員

委員会	委員長	副委員長	委員		
○運営委員会	小瀬博之		須賀良平 鳶田成二	光永威彦 西川豊宏	土井章弘
○総務委員会	須賀良平	鈴木孝彦	前川一郎	内山 稔	亀谷 徹
－教育人材育成委員会	飯田 徹	土井章弘	青木一義 輿水 知	鈴木拓宏	内山 稔
－みらい市委員会	須賀良平	光永威彦	中村 勉* 内山 稔	加藤正宣 亀谷 徹	西川豊宏 眞壁弘行
○財務委員会	光永威彦	加藤健一郎	金津文夫* 尾神充倫	小野寺勇喜 藤村和也	南田州彦 長田邦彦
○出版委員会	土井章弘	小寺定典 永島史朗	近藤 茂* 太田裕司 玉城麻子**	小瀬博之 鈴木拓宏	加藤健一郎 吉井梨紗
○事業委員会	鳶田成二	飯田 徹 竹田喜一 本多 真	青井健史 作佐部実 高橋幸一 山根康祐	飯塚 宏 新ヶ江愛華 中村 勉	紺田眞二 菅原正道 永島史朗
－配管技能講習委員会	竹田喜一	中村 勉 衣斐輝夫	飯田 徹 佐藤貴司 高橋幸一 久保直裕 近藤 茂	宇野健三 菅原正道 松岡克弘 本多 真 （オブザーバー、アドバイザー） 南雲一郎	江口俊和 鈴木良和 宮嶋幸三
○学術委員会	西川豊宏	鍋島美奈子 高村秀紀	大桃 元* 佐藤玲央 矢ヶ崎啓介 坂上恭助***	光永威彦 中野民雄 吉川 潤 飯尾昭彦***	亀谷 徹 野々瀬恵司 渡部一八 市川憲良***
○特別委員会					
－表彰推薦委員会	西川豊宏	須賀良平	青木一義 鈴木拓宏	光永威彦 大桃 元	鈴木孝彦
－アジア建築設備推進委員会	須賀良平	飯塚 宏 小島邦晴 中村 勉	坂上恭助 伊藤修一* 鈴木利幸 常藤和治 南雲一郎 大津宏治 小岩井隆 輿水 知	村川三郎 福元寿哉* 鳶田成二 藤田清人 庄司貴朋 衣斐輝夫 長田邦彦 中山健太	中島 淳* 岩崎眞樹雄 清水文泰 西村和彦 下川得夫 江原泰道
－みらい水回り学生論文賞審査委員会	小瀬博之	橋本政昭 大塚雅之	須賀良平		
－情報委員会	小瀬博之	須賀良平 光永威彦	鈴木一聡	杉本遼太	久保直裕
－関西給排水設備委員会	鍋島美奈子	出口弘士	服部大輔 築地宏明 戸梶俊幸	花澤俊治 八木博史 仲尾佳祐	志波 徹 豊 寛

（注）委員欄は、*：幹事 **：専門委員 ***：顧問委員を示す。

会長理事就任のご挨拶



小瀬博之 東洋大学

2025年5月28日に、大塚雅之以前会長理事の後任として会長理事に就任いたしました。任意団体時代の会長から数えて8代目となります。これまでの会長及び会長理事が築いてきた給排水衛生設備の調査研究、普及啓発、技術者養成及び技能指導の拠点機能を維持するとともに、さらに充実したものとするために、理事及び会員の協力を得ながら事業を推進してまいります。

私は、大学院に進学して本会の初代会長である紀谷文樹先生の研究室に所属した1993年に給排水設備研究会に入会しました。この年は、創立10周年事業が実施された年にあたり、新宿での記念事業が盛大に行われたことをよく記憶しています。

これまでの会長及び会長理事は、創立時から会員でしたが、私は設立当時のことを知らない初めての会長理事となります。そこで、創立時の経緯が詳しく書かれている1984年4月の「給排水設備研究」創刊号を読み直すと、設立時の熱気に満ちた状況がよくわかります。そして、給排水衛生設備における学識者及び学生と実務者が集う交流拠点としての役割は、現在でも変わらないことを実感します。

現在の定款には、目的として「この法人は、広く一般市民に対して、給排水衛生設備分野の調査研究、普及啓発、技術者養成及び技能指導を通じた技術水準の向上及び情報提供事業を行い、わが国の環境の保全および科学技術の振興に寄与することを目的とする。」と書かれており、裾野を広げた情報・交流拠点としての役割を謳っています。給排水衛生設備は、全世界の誰もがいかなる境遇においてもアクセスできることが求められます。その点で、給排水衛生設備の専門家や組織だけでなく、それ以外の方や組織にも必要性や重要性を理解してもらうことが重要と考えており、その役割を果たす活動が求められます。

一方、給排水衛生設備の専門分野においても、国内外における水環境の課題の解決のため、また、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブというグローバルな環境に関する課題の解決のため、さらに、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現に向けて、関連団体と協力しながら会員の総力を結集して取り組む必要があります。

日本国内の人口減少や少子高齢化に呼応するように本会の会員も減少傾向にあり、また、働き方改革などの要因も相まって、主体的に活動してくれる会員の確保が難しくなっていることを実感していますが、DXを推進して事業の効率化と参加促進を図るとともに、対面による交流の機会も通じて参加したくなる会を目指してまいります。

会員のみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

会長理事退任のご挨拶

—困難な時代だからこそ 水のプレゼンスを示す時代—



大塚雅之 関東学院大学

2017年度（第12期）から2024年度（第19期）までの8年間、4期に渡り会長理事を務めさせていただきました。このたび退任するにあたり、この間、会員の皆様からの多大なご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

思えば、1984年、給排水設備研究会発足当時、学生だった私は、今はもうない二子玉川の富士観会館で開催された総会・懇親会の席上、紀谷文樹会長（当時武蔵工業大学教授、現東京工業大学名誉教授）の挨拶を片隅で拝聴していました。そんな席で、故鎌田元康東京大学名誉教授から、「君、将来はあの席に立つんだよ」と諭されて、40年余り、7代目の会長理事として、微力ながらそのお約束は果たすことができたのも皆様のお陰と思い、重ねて感謝いたします。

さて、振り返りますと幾つかの課題や変革を感じた8年間だったと思います。先ず直面した課題は、本会の財政の安定化を図ることでした。財政的には毎年、赤字状態が続き、私が編集理事を担当していた当時、年4回発刊の研究會誌の経費の削減を図りましたが、挽回できず、隔年で開催する各種イベントでの臨時収入での補填を続けていました。会長理事就任後、賛助会員会の実施等を通し、賛助会員を増やし恒常的に収支均衡を維持することが、概ね可能になったように思います。それは、御協力頂きました賛助会員の皆様、それに加藤正宜財務委員長をはじめ、多くの理事・関係者の方々のご尽力により達成できたものと思います。その状況まで漕ぎつけた今、次の体制へのバトンタッチは好機と考えました。

また、2020年には新型コロナウイルス感染症の拡大。コロナ禍の影響を受け、活動が一時停滞しました。期しくも同時期に空気調和・衛生工学会会長の職に在り、両会の運営に苦慮した時期でもあり、空気・水環境の一体となった衛生管理の重要性も感じました。これを契機にオンラインが導入され情報共有のシステムや会議方法も一変しました。さらに2024年に起きた能登半島地震、2017年以降異常気象がもたらす九州・西日本を中心とした豪雨被害など自然災害も多発しました。災害時の水インフラの途絶におけるBCP・LCPへの対応など、給排水設備の大切さを痛切に感じました。最近では、老朽化した上下水道管が原因とみられる事故など、建物と共に都市域も含めた水環境と設備の維持管理、貴重な水資源の有効利用と水循環を考えたネット・ゼロ・ウォーター社会の実現が求められています。われわれの果たすべき役割は、益々多岐に渡り、重要になってきていることを強く感じています。

最後は、冒頭で述べました1984年の創設以来、40周年の月日を経て創設40周年記念の企画を実現でき、皆様と祝えたことです。40周年のテーマは、水の未来—「過去から現在、そして未来へ続く水の営み」—と題し、技術も人も未来を考えた今後の10年の躍進に期待する内容としました。テーマの種明かしをしますと、私の在職する大学の建築・環境学部の学部コンセプトの一つに、サステイナブルな建築のあり方として、「過去から現在、そして未来へ続く時間」を生き抜く建築をキーワードに掲げており、それを振りアレンジし提案しました。刊行した記念誌もコンパクトにまとめられており、記念式典・懇親会も盛況でした。その実行と運営は若手を中心となり、まさに本会の未来を担う会員のメンバーに頑張ってもらいました。水の未来への一歩となったと思います。

今後は、小瀬博之新会長理事のもと、益々、本研究会が躍進すること、そして、会員皆様のご健勝とご活躍を祈念して、退任のご挨拶といたします。ありがとうございました。